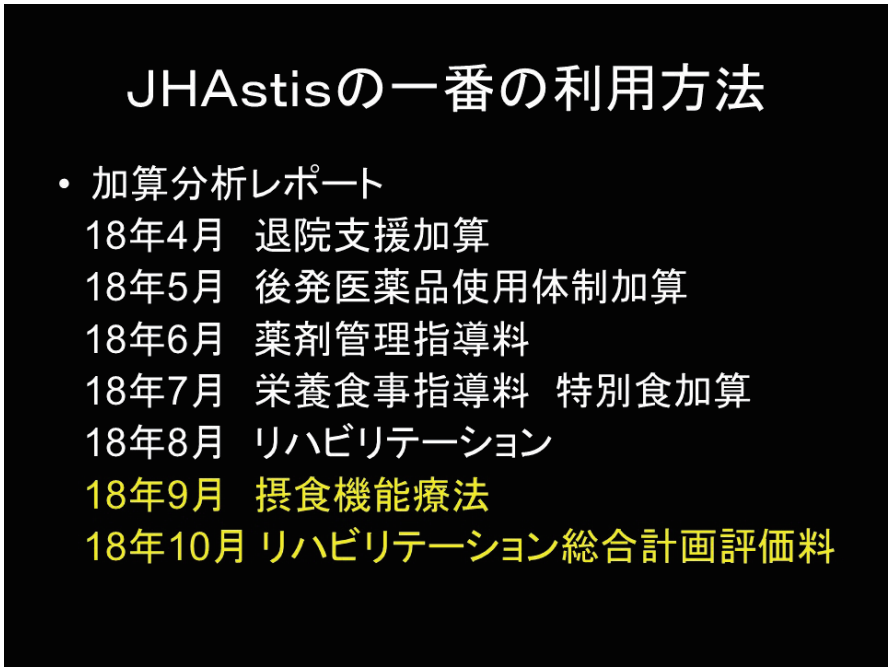
毎月届く加算分析レポートを院内の改善活動のきっかけに活用

日本病院会が 1 月 22 日に開催した「JHAstis（ジャスティス）」の勉強会で、福井厚生病院（福井市、199 床：一般 82 床、地域包括ケア 43 床、回復期リハビリ 33 床、精神 41 床）の金森貴範氏（事務部長補佐兼庶務課課長）が講演。毎月配信される JHAstis の「月次レポート」にある加算分析をきっかけに、関係部署へのヒアリングなど院内の改善活動を推進していることなどが報告されました。

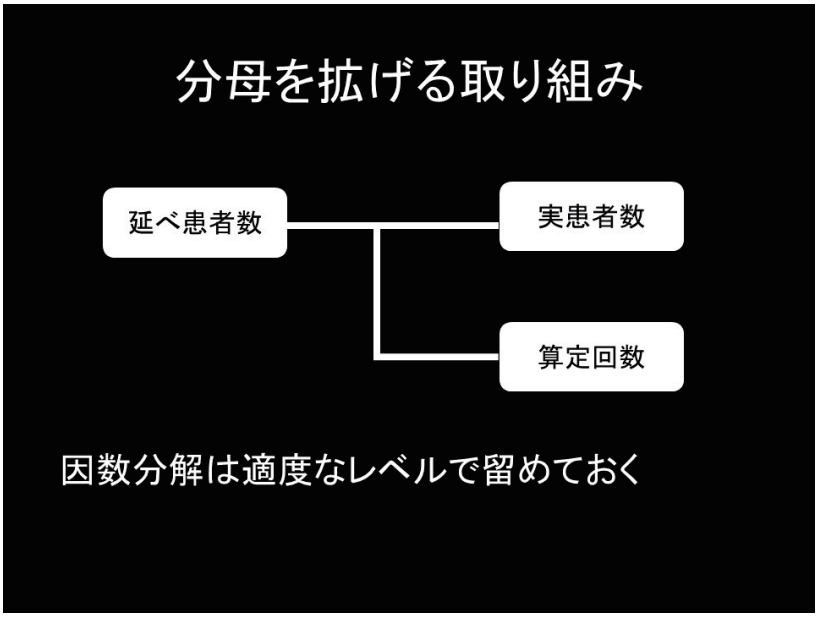
福井厚生病院の金森貴範氏（事務部長補佐兼庶務課課長）

福井厚生病院では定期的に、院内の幹部（理事長、院長、副院長、看護部長、事務部長）と事務部門のスタッフが JHAstis レポートを確認しています。また、理事長が議長を務める法人運営幹事会（毎月最終火曜日開催）など 3 つの重要会議でも利用されています。

同院で最も重宝しているのも月次レポートの加算分析。加算分析は毎月、退院支援加算や後発医薬品使用体制加算、リハビリテーション総合計画評価料などテーマを決めて、それぞれの加算算定マニュアルのほか、他病院とのベンチマーク分析の結果を掲載しています。



ベンチマーク分析の結果、改善が必要な加算については、関係部署へヒアリングしたりするなど、院内の改善活動を推進するきっかけになっています。ヒアリングを通じて、主に算定件数をいかに増やすかという視点で改善活動を行っています。



金森氏は、「ベンチマーク分析の結果を毎月、注視している。他病院の状況と比較できるというところが、JHAstis における一番の利用価値なのではないか」と評価しました。また、「部署を超えて、他部署の先輩や後輩たちと一緒に重要な情報を共有し合えるところもJHAstis のいいところ」と、チーム医療の推進にも一役買っていることについても言及しました。